

令和4年度第4回士別市社会教育委員の会議議案

□と き 令和5年3月20日（月）15時10分

□ところ 士別市役所 3階 議場

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

（1）令和5年士別市教育行政執行方針について 資料1

（2）生涯学習情報センターの運営状況について 資料2

4 協議事項

（1）令和5年度士別市社会教育事業計画について 資料3、資料4

5 研究活動

（1）研究活動総括 資料5

（2）意見交換

6 閉会

# 士別市教育行政執行方針

令和5年第1回定例会



令和5(2023)年2月

士別市教育委員会



令和5年第1回士別市議会定例会にあたり、新年度における教育行政の基本的な執行方針を申し上げます。

## 【はじめに】

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う様々な対策や制限が3年以上に及ぶなか、国は、感染症法上の位置付けを見直すことを決定し、さらに3月中旬からはマスク着用などの判断も個人に委ねることなどを示しました。また、学校に関わっては、卒業式における基本的な考え方についての通知があったほか、4月1日からの感染症対策については、今後通知が示されることになっています。

この間、学校教育においては、各種の感染拡大防止対策を講じながら子どもたちの「学びの保障」に努めるとともに、対面での授業やICT端末も活用したグループ討議など、主体的・協働的で深い学びの実現を図ってきました。あわせて、可能な限りのびのびと充実した学校生活を送ることができるよう、新たな発想や発案のもとに、数々の学校行事や体験活動などを実施してきました。また、子どもたちに限らず、あらゆる市民の生涯学習活動をできる限り停滞させることのないように、文化・芸術・スポーツ活動の機会確保に努めてきたところです。

今後においても、これまでの対応等を通して得た経験をもとに、一層の工夫も加えながら、「ウイズコロナ」下にあつての教育行政の推進に努めてまいります。

一方、「Society5.0時代」を迎えようとしている今だからこそ、あらためて個々の「人間性」や人と人とのつながりを大切にすることがすべての人々に求められています。とりわけ未来を築いていく子どもたちには、自己効力感や向上心を有し、多様性への理解と自他を共に尊重する心をもって、豊かな人生を切り拓く「力」を身に付けてほしいと考えます。そうした力を育むためにも、「令和の日本型教育」の柱とされている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進に引き続き努めていくことが肝要です。あわせて、体験的学びや多世代間交流を中心とした社会教育を推進していくことが重要と考えます。

市民の主体的な学習活動や生涯各期の学びによる自己実現の達成に向けては、教育大綱や生涯学習推進計画に掲げる施策の推進を図るほか、そうした活動の環境基盤となる施設・設備等については、持続可能性や財政状況も踏まえながら、望ましい教育・学習環境のあり方について引き続き検討を進めます。

こうした考えの下、新年度の主要な取組について、大綱の「学校教育」、「社会教育」、「スポーツ」、「文化・芸術」、「教育・学習環境」の区分に沿って申し上げます。

## 【学校教育】

はじめに、学校教育を基軸とする子どもたちの学びと育みについてです。

新型コロナウイルス感染症に関わっては、今後とも状況の変化や新たな取組にも対応しながら、学校における安全・安心の確保と学びの保障の両立を図るとともに、児童生徒の身体的・精神的・心理的健康の保持に努めます。

全国的な共通目標として構築をめざしている「令和の日本型学校教育」では、児童生徒が自身と他者を共に大切にすることを育みながら、個別最適な学びと協働的な学びを推進するとともに、ICT端末を適切かつ有効に活用する学びの展開を、バランスよく実施するものとします。そのためにも、授業のユニバーサルデザイン化をはじめとする教員の研究活動を促進するほか、ICT活用に関わるプロジェクトチームなどを中心とした全市横断的な連携の強化を図り、授業力の向上やインターネット・リテラシーを含めた情報教育の充実に努めます。

特に、教員の研修に関わっては、昨年7月以降の免許更新制の廃止に伴い「新たな教師の学びの姿」を旗印に、各種研修による能力向上がこれまで以上に強く求められ、さらにその履修状況の把握や助言等に関しては、学校長や教育委員会が担うことから、教育委員会職員を含めた多くの学校教育関係者が常に学び続ける意識をもって、それぞれの役割を果たしていくことに努めます。

また、引き続き学校内外の通信環境の充実に努めながら、デジタル教科書をはじめとする各種デジタル教材の活用のほか、複数校によるオンライン授業と交流活動についての調査研究等を進めます。

今日の学校経営においては、児童生徒にとって充実した学校生活の実現をめざすことと同時に、教職員が心身ともに健康で、高いモチベーションのもとに生き生きと働くことのできる環境づくりが不可欠となっています。こうしたことから、学校内における組織的なマネジメントとコミュニケーションに加え、働き方に対する意識改革も進めていかなければなりません。また、外部人材の活用や支援員等の積極的関わりによる体制の充実、さらには学校運営協議会によるコミュニティ・スクール活動を中心とした地域との連携など、様々な視点や立場からの理解と協力も得ながら、より良い学校づくりに努めます。

児童生徒の多様な学びに向けては、引き続き各企業・事業所等の協力のもとでのインターンシップ体験やトヨタ自動車土別試験場での視察見学、ダイハツ工業による「ものづくり体験教室」などの実施を予定しています。さらに、合宿に訪れている実業団チーム等による「スポーツ教室」やオリンピックによる「オリンピック・オリンピック教室」についても継続実施し、子どもたちがアスリートと直接対面するなかで、様々なことを感じて学ぶ機会の拡充を図ります。

また、農業学習や消費者教育、環境教育、防災教育をはじめ、平和や人権、男女共同参画等に関わる学習についても引き続き実施します。

授業や活動内容によって特別な支援等を必要とする児童生徒に対して、より適切な指導と支援を提供するため、特別支援教育支援員の充実を図るほか、ことばに関する通級指導や読み・書きなどに関わる専門的支援を継続実施します。また、不登校児童生徒に関わっては、引き続き適応指導教室「ウィズ」での指導員による親身な支援と指導を進めます。

いじめに関わっては、全市的な「いじめ防止基本方針」と各校基本方針のもと、在籍校の教職員全体での対応はもとより、関係機関等の連携を深めながら、日常的な実態の把握と早い段階での対応に努めます。また、虐待やヤングケアラー等に関わる事案のほか、問題行動などに対しても、児童生徒に寄り添うことを第一に、学校はもとより教育委員会や市長部局担当に加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも必要に応じて連携し、適時・適切な対応に努めます。

すべての子どもたちに、教育における機会の平等と格差の解消が実現する社会の構築に向けても、引き続き本市の義務教育段階においては、所得による教育格差が生じることのないよう、就学援助に関わる国の基本的取扱いや他自治体の取組などを踏まえた調査・検討を進めます。

部活動に関わって、本市ではこれまで、拠点校方式の導入・拡充やガイドライン等の適宜改定に努めてきたところですが、新年度からは国が示している「段階的な地域移行」に伴う取組を具体的に進めることとなります。

昨年12月には、スポーツ庁と文化庁の連名で「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示されたところであり、この内容を踏まえる一方で、本市における現状や活動の分野・種目の特性を踏まえ、今後の子どもたちのスポーツ・文化活動のあり方について、その連続性も考慮しながら最適と考えられる形態を模索していくことが必要です。このため、学校、PTA、各スポーツ団体や文化団体、さらには地域も含めて、多様な視点と協力体制を念頭に置いた協議会を設置し、共通認識・理解のもとで具体的な検討・協議を進めます。

学校給食については、栄養バランスや安全性はもとより、本年度実施した児童生徒に対する調査の結果も踏まえ、さらなるメニューの工夫と食材を生かした美味しい給食の提供に努めます。また、友好都市等との交流も意識したメニューや幼稚園・地域保育園等にも提供している「ふるさと給食」を継続します。

あわせて、栄養教諭も委員を担っている「食育推進市民会議」等との連携のもと、食育に関わる理解拡大に努めます。

士別東高校については、名実ともに「移行支援としての高校教育」を実現している学校として高く評価されているところであり、「生徒個々に応じた教育」や「パーソニックスタディ」など、個性や多様性を尊重し、個々の状況に対応した教育を引き続き推進します。あわせて、学校運営協議会を中心として地域との連携のもと、地域に根ざした教育活動の実践に努めます。また、支援員体制を拡充し、一層きめ細かな教育活動を進めます。

多くの市内中学生の進路となっている士別翔雲高校に関わっては、引き続き、公立学校配置計画や今後の生徒数見込みなども見据えながら、地方創生における高校の魅力化の視点に立った連携と支援を進めます。

## 【社会教育】

次に、社会教育についてです。

生涯学習推進の中心的役割を担う社会教育については、SDGsの視点からも、多様な人々が相互理解のもとで共生していく社会の実現に向けて、極めて重要な役割を果たすものと期待されています。特に、一人ひとりの自発的な学びの成果が地域社会に還元され、リカレント教育が人生100年時代における豊かな社会の構築に大きな影響を及ぼすとも捉えられています。こうした背景も踏まえ、「第2期士別市人づくり・まちづくり推進計画」に基づき、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を実現する社会教育の推進に努めます。

キャリア教育の役割と豊かな体験活動の場を提供してきた「土曜子ども文化村事業」については、職業体験、文化芸術体験、自然活動や郷土の歴史を学ぶ体験を柱に、事業の枠組みや名称等を含めた検討を進め、活動のさらなる充実を図ります。

長期休業時における小学生を対象とした「チャレンジ寺子屋」についても、引き続き各校の教職員や士別翔雲高校生などの協力も得ながら内容の充実に努めます。このほか、体験を受入れる企業や事業所をリスト化した「職場体験・職場見学一覧」や出前型の体験活動プログラム集「まなび☆ガイド」の活用を促進し、学校の授業やPTA研修等を通じた幅広い体験活動の機会拡大を図ります。

子どもたちを対象としたリーダー研修については、今日的なニーズと地域環境も踏まえながら、子ども会育成連絡協議会などとの連携のもとに、新たな取組を模索するとともに、コロナ禍によって中止されてきた「チャレンジスクール」の再開など、子どもたちの多面的育成に向けた検討・協議を進めます。

中学生の意見・提言の発表機会である「子ども議会」を継続実施するとともに、本年度から自分の夢や発想を自由闊達に話す形に変更した「こども夢トーク」についても、引き続き内容の充実を図ってまいります。

青少年健全育成に向けては、引き続き多様化する悩み事を気軽に相談できる体制づくりに努めるほか、学校や関係機関等との連携を深め、青少年指導センターによる街頭指導や啓発活動を実施します。また、「全国学力・学習状況調査」や本市独自の情報通信機器の利用に関する調査の結果を踏まえ、安全で適切な利用のほか、情報通信機器に触れる時間と家庭学習に取り組む時間など、望ましい生活習慣と学習習慣の定着に向けて、子どもたちのみならず家庭全体での理解拡大を図ります。

主に勤労青年層を対象とした「まちづくり塾」については、本年度から2ヵ年間のカリキュラムとして再開し、現在は第7期の塾生11名が、本市の歴史や文化をはじめ様々なまちづくりの取組を学ぶとともに、互いの意見を交換し合うなど交流を深めながら活動しているところです。新年度においては、さらなる学びと交流のもとに、これからの本市のまちづくりを展望した活動を進めます。

昭和45年の開学から53年を経過する「九十九大学」は、新年度をもってその歴史に終止符を打つところであり、最後の卒業生にも充実した学生生活を過ごしていただくとともに、本大学の足跡を振り返りつつ、今後の高齢者の学びにつないでいきたいと考えています。一方、新たな枠組みとして令和3年度にスタートした「学び舎つくも」については、多くの登録と参加を得ているところであり、今後も学習ニーズの把握と工夫に努めながら内容の充実を図ります。

幅広い世代の主体的な学習活動の促進のため、「マイプラン・マイスタディ」の周知・活用を図るほか、従前の手帳に代わって電子化された「道民カレッジ」連携事業についても、参加の促進などに努めます。

市立図書館においては、引き続き多様なニーズに対応した図書資料の整備を図るほか、丁寧なサービス提供と読書推進活動を中心とした各種イベント等の実施のもと、図書館ボランティアの方々などの協力もいただきながら、市民にとってより身近な図書館をめざします。

市立博物館においては、特別学芸員やボランティア友の会などの協力も得ながら、充実した講座の開催に努めるほか、各種企画展などを実施します。特に主要な特別企画展として、本年度は3年に1度の「日本版画協会巡回展」を実施しましたが、新年度はこの巡回展の通算90回目を記念とした土別展を開催する予定です。



市民の生涯学習活動の拠点である市民文化センターや生涯学習情報センター「いぶき」については、これまで感染拡大防止対策を適宜見直しながら、その利用促進を図ってきたところであり、今後も業種別の施設ガイドラインを参考にしながら、できる限り多くの皆さんに利用いただけるよう努めます。

文化財に関わっては、指定文化財の保護のほか、有形・無形の文化財の継承・伝承に努めるとともに、学校授業や社会教育の機会も通して、子どもたちをはじめとする多くの市民の郷土愛の醸成をめざします。

## 【スポーツの振興】

次に、スポーツの振興についてです。

新年度においては、全国高等学校総合体育大会「翔び立て若き翼 北海道総体」が道内20自治体で開催され、本市ではウエイトリフティング競技が実施されることになっています。円滑な競技運営に向けて十分な準備を進めるとともに、地元選手をはじめとする高校生リフターがそれぞれ好成績を収め、参加者や関係者にとって良い思い出が残る大会となるよう万全を期してまいります。

オリンピックムーブメント推進の主要事業である「オリンピックデーラン」については、2年の延期を経た本年度、関係スポーツ団体等の協力のもとに、30回目の節目となる土別大会を開催することができ、6名のオリンピック・パラリンピアンと市民など約280人が交流しながら、共に心地よい汗を流す機会となりました。

新年度は、これまでの経験や人的ネットワークも生かしながら、オリンピック・パラリンピックに込められた意義や願いを広く伝達・理解拡大していく機会として、さらにはオリンピック・パラリンピアンとの交流機会として、本市独自の形態を基本に内容の充実を図ってまいります。また、本事業に関連して実施しているスポーツ教室やオリンピックによる学校での授業についても、日本オリンピック委員会や北海道オールオリンピアンズの協力を得ながら継続して実施します。

本市最大のスポーツ大会であり、市外の方々が最も多く来訪するイベントである「土別ハーフマラソン大会」をはじめ、陸上中長距離における主要大会となっている「ホクレン・ディスタンスチャレンジ土別大会」や全日本スキー連盟公認「サマージャンプ大会」等の各種大会についても、内容の充実と参加者の拡大を図り、市民にとって一層身近な存在となる大会運営に努めます。

あわせて、これらの大会との関連付けも含めて、多くのトップアスリートが訪れ、世界をめざして体と心を鍛える「合宿の聖地」となるよう、合宿の里土別推進協議会を中核とした受入れ態勢の強化・充実に傾注します。

「健康・スポーツ都市宣言」のもと、すべての市民が、それぞれの関わり方でスポーツに親しむことや健康を意識した運動の習慣化など、「市民皆スポーツ」の実現に向けて、スポーツ協会や各競技団体等との連携を強化しながら、啓発活動や支援事業を継続するとともに、健康増進やスポーツ振興につながる取組を進めます。

新たに、「青少年運動能力向上事業」として、実施主体となる士別市スポーツ協会への補助のもと、主に幼児から中学生までを対象に、ボール運動プログラムである「バルシューレ」を基本とした取組を実施することで、子どもたちの運動能力向上を図ります。

## 【文化・芸術の振興】

次に、文化・芸術活動についてです。

文化・芸術活動は、日々の生活に潤いや癒しをもたらすなど、人として心豊かに過ごすために不可欠な存在です。今後も文化振興条例の趣旨を踏まえ、市民の自主的・自発的な文化活動の支援・促進に努めるとともに、その魅力を発揮できる風土づくりに努めます。

また、この3年間、数々の制約を受けてきた芸能発表活動や舞台鑑賞機会など、主催者や来場者の対応によって得てきた経験も生かしながら、以前にも増して活発な活動の促進や充実した機会づくりに努めます。

市民総合文化祭についても、ICTの活用による作品披露などの新たな取組や演目構成などに関わる工夫に加え、様々な手法の検討やアイデアを取り込みながら、日頃の活動を発表する機会の確保に努めます。

あさひサンライズホールにおいては、引き続き適切な管理運営に努めるなかで、充実した芸術鑑賞機会の提供や一層の自主企画事業の展開を図り、芸術を身近に感じ取ることのできる機会の創出や地域文化の振興に努めます。

また、アウトリーチ活動やワークショップ等による体験的な学びのもと、演劇やダンスなどを介した児童生徒の表現力の育成をはじめ、仲間と共に創り上げる意欲の醸成や自己効力感の向上をめざします。

## 【教育・学習環境の整備】

最後に、これら各分野の教育・学習振興に向けた環境整備についてです。

学校教育に関わっては、市立学校全校に設置している学校運営協議会を中心に、地域特性を生かしたコミュニティ・スクールと地域が一体となった活動を推進することにより、学校を取り巻く課題の解決と地域の活力創出に努めます。こうした活動を通して、地域力を結集し、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現をめざします。

「学校における働き方改革」については、本市の「働き方改革推進プラン」に掲げる基本的取組をはじめ、校務支援システムの活用や勤務時間の客観的な把握と管理のほか、校長会等との連携のもとに、組織強化と意識改革に努めながら、支援員や相談員などを含めた「チーム学校」としての体制づくりを推進します。また、生徒数の減少によって北海道教育委員会が定める基準を下回り、事務職員が配置されなくなる学校に対して、市費による配置によって組織体制を維持し、学校経営の安定と教員の負担の増加を解消します。

地域学校協働活動で明らかになっているとおり、教育環境の充実や地域課題の解決に向けては、市民の力や地域の力が必要なことから、教育委員会における社会教育主事の体制充実とともに、市民の社会教育士称号の取得促進などに努めます。

教育委員会事務局においては、学校現場での経験と知見を有する「指導主事」や「学校教育アドバイザー」、「社会教育アドバイザー」などの職員と行政職員との連携のもと、共同研修などを実践しながら、教育行政の一層の前進に努めます。

学校施設については、児童生徒が日中の大半を過ごす場所であることから、安全・安心を第一に必要な整備を進めます。特に、未耐震校舎として早急な対応が求められている朝日中学校に関わっては、保護者等との協議結果も踏まえ、糸魚小学校との小中接続による「義務教育学校」を前提に、総合計画に基づくスケジュールを踏まえた検討を進めます。新年度においては、士別南小学校の校舎屋上防水や屋体屋根張替のほか各種改修工事、士別南中学校体育館の屋上防水工事などを実施します。

社会教育施設関係では、あさひサンライズホールの機械設備・舞台機構の改修や生涯学習情報センター地階の湧水対策などを実施します。また、社会体育施設関係では、朝日三望台シャンツェの大規模改修に向けた実施設計を行うほか、朝日農業者トレーニングセンターのアリーナ床の張替や総合体育館の屋根雪落下に対するフェンス改修など、特に安全性に関わる整備や改修等を重点に実施するとともに、適切な管理運営に努めてまいります。

## 【むすびに】

新型コロナウイルスに関わって、国は感染症法上の位置づけを「5類」に移行し、学校では4月1日からマスクの着用を求めないなどの考えを示しています。しかしながら、着用の具体的な取扱いについては後日示すとされているため、学校の対応等に関しては、その内容が明らかになり次第、校長会等との協議のもとに検討してまいります。

一方、コロナ禍における「学びの保障」の観点からも、急速に進んだ「GIGAスクール構想」のもと、今後もICT端末等の活用がさらに進むことが見込まれるなかで、リテラシーや健康面にも配慮しながら、積極的活用を図ってまいります。

今後も訪れうる様々な困難に対応し、住みよいまちづくりを進めていくためには、私たち一人ひとりが学び続け、周囲の人々との協力と信頼関係を高めていくことが必要です。さらに、将来を担う子どもたちの健やかな成長を図っていくことが、地域の発展には欠かせません。こうしたことから、引き続き、学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもたちをはじめとする「人づくり」に力を注いでまいります。

あわせて、「誰ひとり取り残さない」ことや安心していられる場所を確保していくことが世界的な共通目標として求められています。こうしたなかで「子どもが元気、高齢者がいきいき、あらゆる世代が健やかで、心豊かに学び続ける」ために、本市教育行政においても、「人間力」・「組織力」・「地域力」の3つの力を高め、生かしていくという理念のもと、その推進に全力を尽くしてまいります。

以上申し上げ、令和5年度の教育行政執行にあたっての基本的な方針といたします。



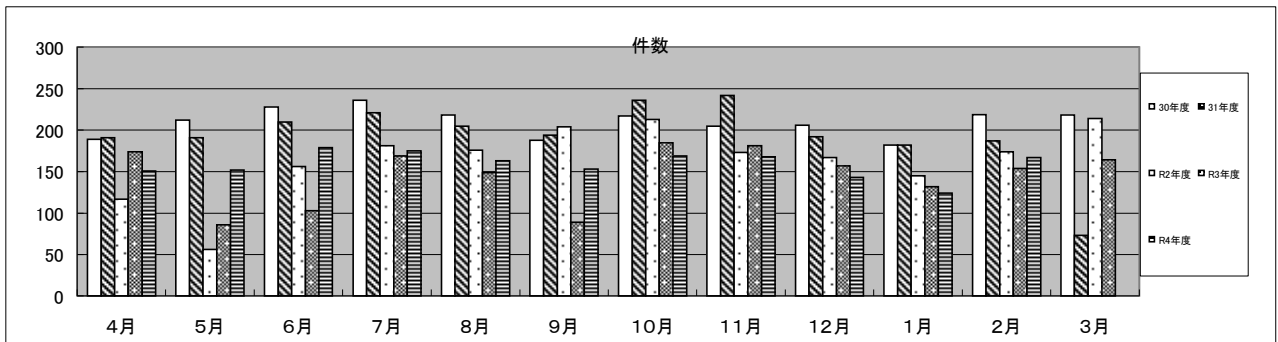
士別市生涯学習情報センター利用状況(年度毎比較)

資料2

利用件数

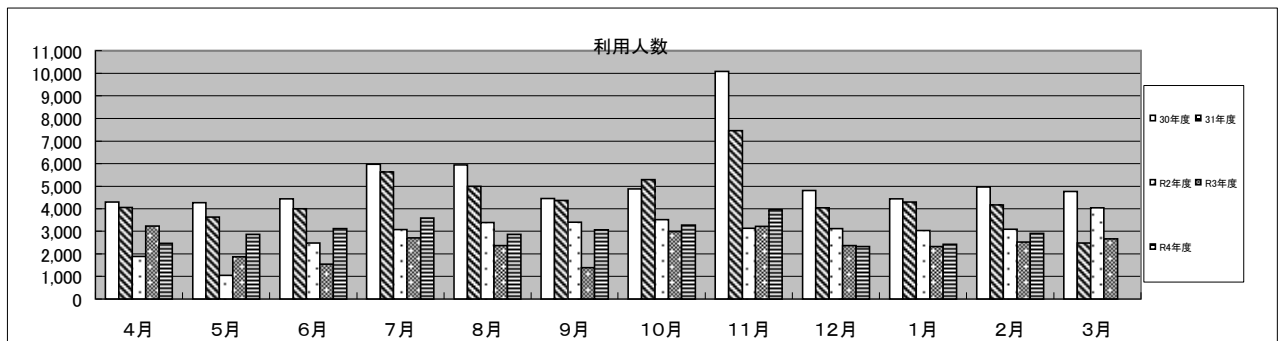
(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
30年度	189	212	228	236	218	188	217	205	206	182	219	218	2,518
31年度	191	191	210	221	205	194	236	242	192	182	187	73	2,324
R2年度	117	56	156	181	176	204	213	173	167	145	174	214	1,976
R3年度	174	86	103	169	149	89	185	181	157	132	154	164	1,743
R4年度	151	152	179	175	163	153	169	168	143	124	167	0	1,744



利用人数

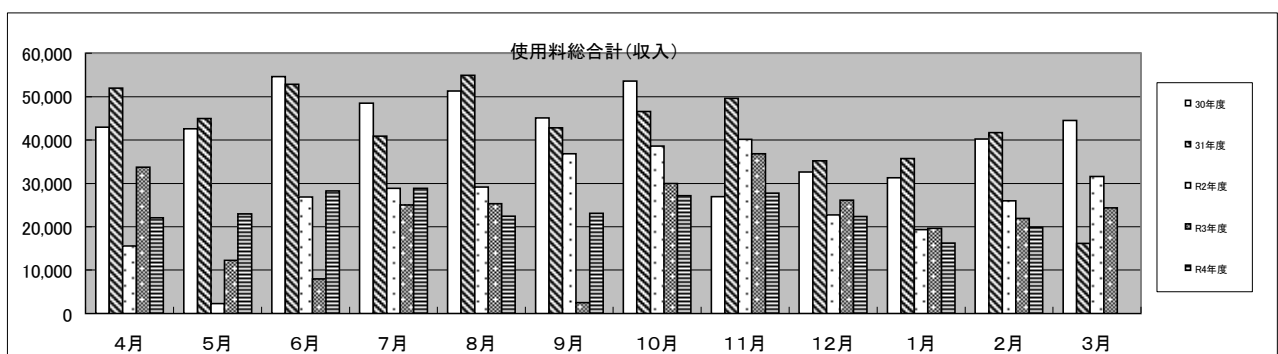
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
30年度	4,301	4,272	4,430	5,966	5,944	4,444	4,875	10,084	4,804	4,440	4,964	4,758	63,282
31年度	4,058	3,636	3,995	5,630	4,991	4,374	5,279	7,454	4,051	4,293	4,173	2,481	54,415
R2年度	1,885	1,055	2,478	3,072	3,390	3,398	3,514	3,135	3,122	3,040	3,080	4,040	35,209
R3年度	3,237	1,869	1,540	2,712	2,361	1,392	2,984	3,219	2,366	2,319	2,525	2,658	29,182
R4年度	2,463	2,865	3,127	3,581	2,861	3,056	3,268	3,962	2,319	2,420	2,915	0	32,837



使用料総合計(収入)

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
30年度	42,955	42,615	54,585	48,475	51,285	45,130	53,570	26,930	32,660	31,295	40,215	44,540	514,255
31年度	51,975	44,915	52,845	40,895	54,965	42,825	46,520	49,610	35,210	35,695	41,705	16,135	513,295
R2年度	15,550	2,265	26,830	28,875	29,145	36,800	38,645	40,190	22,735	19,330	25,915	31,630	317,910
R3年度	33,775	12,225	7,910	25,045	25,320	2,450	29,945	36,775	26,135	19,655	21,915	24,295	265,445
R4年度	22,040	22,930	28,295	28,870	22,420	23,085	27,150	27,770	22,365	16,215	19,800	0	260,940



※平成22年度より「利用件数」及び「利用人数」には図書館入館者が含まれている。

## 社会教育委員の意見への回答

### 資料 3

#### 子どもについて

	回答（検討事項や次年度への取組反映状況）	回答課
多くの大人と子どもが関わるのは健全育成上望ましいと考える。	各種社会教育事業では、講師となる大人と子どもの接点の機会を作るようにしている。今後も多くの大人が子供の教育に関わる事業計画を進める。	社会教育課
社会や人間関係を学ぶ場として、宿泊をするチャレンジスクールは貴重な場である。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年から令和4年まで実施を見送っている。課題や運営体制も含め、より効果的な事業となるよう実行委員会と協議を重ねていく。	中央公民館
海外留学をした子は、日本のすばらしさに気づき、学び直すと思う。多くの子が市外に出る土別市においても、より一層のふるさと教育が必要である。	しべつ土曜子ども文化村にて、土別市の職業、文化、自然、歴史を体験しながら学習する機会を継続的につくり、ふるさとを愛する土別っ子の育成を続ける。	社会教育課 中央公民館 博物館
小学生、中学生、高校生が世代を超えて交流する機会が子ども会などであったが、今はその機会が減少している。	チャレンジ寺子屋では、小学生と高校生の交流機会をつくっている。今後は、リーダー養成事業などと連携した中学生の参画を検討する。	社会教育課
P T A活動も縮小され、子どもだけでなく、親たちのつながりも薄れている。活動・交流の中で、子どもの成長とともに大人も学び得ることが多くあり、その経験が家庭教育に反映されることもある。	次年度は、家庭教育に関する研修を実施予定。講演などを通して、家庭教育支援を行う。	社会教育課
幼少期は失敗体験があってもいい。文化村などで、低学年から体験する機会があってもいいのではないか。	土曜子ども文化村は小学4～6年生を対象に実施しているが、低学年が参加することで、学習能力の差が広がり、講師の負担が増えることから、今後も現在の対象で実施する。なお、ふるさと自然歴史体験館では、指導内容や会場のキャパ等、条件が許せば一部低学年の参加を募っている。安全管理や学習支援のために、保護者同伴を条件としており、今後も可能な限り幅広い年齢層が参加できる体制構築を継続する。	社会教育課 中央公民館 博物館
子どもがいない家庭には、学校や子どもの情報が入ってこない。	新聞を取っている場合は、地域の「学校だより」が届く。また、一部地域では、コミュニティ・スクールの地域コーディネーターが主体的に通信を作成し、学校と地域の連携協働の状況を広く周知している。	学校教育課 社会教育課
多寄地区では、学校やコミュニティ・スクールの通信が配られ、学校事が周知される。子どもと一緒に行事などに参加することは心が洗われる。子どもを通じて、地域のコミュニケーションがとれる。	学校運営協議会の協議では、学校と地域の協働活動に対する期待の声が出ている。今後、児童生徒の健全な成長や教育を提供するために協議を促進し、「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」の両面から推進する。	学校教育課 社会教育課
子どもが頑張っている姿を地域に見せたい。子どもの成長にも繋が		

#### 地域部活動について

	回答（検討事項や次年度への取組反映状況）	回答課
対象となる各種団体にほとんど情報が届いていない。決定事項ではなく、検討段階からすり合わせる必要があるのではないか。		
関係者、地域住民への説明を行い、指導者、保護者、学校、相互の協力体制を構築するために理解してもらう必要がある。	(令和5年度土別市教育行政執行方針より) 『部活動に関わって、本市ではこれまで、拠点校方式の導入・拡充やガイドライン等の適宜改定に努めてきたところですが、新年度からは国が示している「段階的な地域移行」に向けて検討していくことになります。昨年12月には、スポーツ庁と文化庁の連名で「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、北海道教育委員会においては「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」が年度内に策定される見込みです。これらの内容を踏まえ、本市における現状や活動の分野・種目の特性を踏まえ、今後の子どもたちのスポーツ・文化活動のあり方について、その連続性も考慮しながら、土別市として最適と考えられる形態を摸索していくことが必要と考えています。このため、学校、P T A、各スポーツ団体や文化団体、さらには地域も含めて、多様な視点と協力体制を念頭に置いた協議会を令和5年度に設置し、具体的な検討・協議を進めていきます。』	学校教育課 合宿の里・スポーツ推進課 社会教育課
種目ごとに現状と課題は異なることから、一堂に集まって課題をまとめるだけではなく、種目ごとに関係者が話し合い、課題整理が必要ではないか。		
小学生のうちから、スポーツ、文化ともに体験する機会を多く作り、児童生徒の興味・関心を引き出す活動が必要である。	2月14日には北海道教育大学岩見沢校山本教授を講師に、「今後の部活動を考える市民セミナー」を開催し、69名（うち社会教育委員8名）が出席し、制度や仕組み、考え方について共通理解を図った。	
学校教育との兼ね合いから、指導方針や教育にどのように関わればいいのか、やりづらさ、難しさを感じる。		

#### その他

	回答（検討事項や次年度への取組反映状況）	回答課
自分の所属している団体を始め、多くの文化団体に若い人の入会があれば、世代間の交流につながり、しいては地域の活性化の一翼を担う助けになれば嬉しい。	サークルメイトの発行、および市HPでの公開などで、社会教育団体を紹介する。また、社会教育団体の展示活動の周知の支援を検討し、多くの市民に団体の活動を知ってもらう機会を創る。	社会教育課

社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
1. 学校教育									
(2) 組織力と連携の強化もとの学校教育の推進 (教育委員会全課)									
1	社会教育関係職員研修	社会教育課	社会教育関係職員が、事業計画や市民ニーズの重要性を学ぶ研修を行い、実務力向上を図る。	社会教育関係職員	延べ22名 3回	【成果】担当者同士で他事業の取組や課題を交流できた。 【課題】研修内容を十分に活用する機会がなかった。	延べ50名 4回	15	新しく社会教育行政に携わる職員への基礎的な研修の実施と事業実施の計画構想の演習などを行う。
(3) 地域資源を活かし郷土愛を育む教育の実践 (学校教育課・社会教育課・給食センター)									
1	士別市小学生みよし市派遣交流事業	社会教育課	友好都市のみよし市へ小学6年生を派遣	小学6年生	子ども12 引車4	【成果】感染対策を徹底したことで、体調不良を訴える児童はいなかった。 【課題】・定員を超える申し込みがあった場合の選定方法 ・研修内容の検討	18名	1,048	参加人数を対象児童数における割合に変更
(4) 外部人材や企業の協力による体験的学びの提供 (学校教育課・スポーツ推進課)									
1	「オリンピアン教室」 or 「オリンピック教室」	合宿の里・スポーツ推進課	オリンピックムーブメント推進の一つとして、市内中学生に「オリンピズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供し、学校生活や日常生活など、今後の成長に生かしてもらう。	士別中学校2学年 士別南中学校2学年 上士別中学校全学年 朝日中学校全学年	141名	【成果】「オリンピズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供できたとともに、オリンピックに出場するまでのバックグラウンドを知る機会を提供することができた。 【課題】オリンピアンに限らず、パラリンピアンのお話を聞く機会を提供すること。	131名	251	
2. 社会教育									
(1) 次代を担う人材の育成とまちづくりへの参画意識の醸成 (社会教育課・中央公民館)									
1	はたちを祝う会開催事業	社会教育課	20歳という人生の節目を迎える方を市全体で祝いますとともに、成人としての自覚をあらためて促す機会とする。	20歳の方	125名	【成果】オンラインを活用した参加申込による経費削減及び利便性の向上 【課題】アトラクション・記念行事・式典など地域協働の推進	150名	235	令和4年度から名称を「士別市はたちを祝う会」に変更し開催。
2	士別まちづくり塾事業	社会教育課	市内の概ね20歳代及び30歳代の男女が、まちづくりに向けての学習活動を行い、市の将来を担う人材の育成を行うことを目的に開催する。	18歳～30代の市民	11名	【成果】初対面の塾生が、士別市を学び、交流が盛んに行われている。 【課題】全塾生が揃ったことがない。	11名	309	令和4年度塾生の後期の活動を実施予定。 自主企画まちづくり活動を計画、実施する。
3	子ども議会開催事業	中央公民館	市内中学生の「まちづくり」への興味・関心を育み、子どもの自由な発想を生かした意見・要望を市政に反映させる。	中学生	7名 1回	【成果】市内中学生が自由な発想による意見・要望を議会の場で発言できた。 【課題】質問項目が11回も実施すると重複することが多い。子ども議員と担当者が1組となりそれぞれの組で質問通告書を作成するため、互いの進捗確認や交流ができないため、中間発表の場を設けたい。	8名	165	市内中学生の子ども議員からの意見や要望を市政に反映する。
4	こども夢トーク事業	中央公民館	子どもたちが市長と夢や未来への希望を語り、好奇心・探究心を高め、子どもたちの持つ豊かな可能性を広げる。	士別中学校生徒 多寄小学校生徒	7名 8名	【成果】子ども議会との差別化を図るため、市長と直接語ることに重点を置き、ディスカッション形式に変更した。 【課題】	小・中学校 2～3校	36	士別小学校、温根別小学校、上士別小学校で実施予定。
(2) 子どもの体験活動の充実と望ましい生活習慣の定着 (社会教育課・中央公民館)									
1	チャレンジスクール補助事業	中央公民館	望ましい生活習慣・学習習慣定着を目指して、3泊4日の宿泊体験活動	小学4年生	中止	【成果】 【課題】しばらく開催できておらず、事業を知る人が少ない。	20名	420	
2	チャレンジ寺子屋	社会教育課	長期休業中の望ましい学習・運動習慣定着を目的とした学習・体験活動を提供する。 高校生が主体的に参画できるような事業作りを推進する。 【体験内容】 (夏)・イングリッシュゲーム ・アダプテッドスポーツ ・脱出ゲーム (冬)・おなか元気教室 ・冬の外遊び ・交流ゲーム	小学3～6年生 翔雲高校生徒	児童 延べ119名 高校生 延べ35名 (全6日)	【成果】事業目的の他者との協働を実践する場面がつけられた。 【課題】・1日のみ参加など、事業目的とは異なる参加実態 ・限られた期間での学習・生活習慣の定着に向けたプログラムづくり ・より主体的に高校生が参画する事業づくり	400名	108	周辺地区での体験活動の充実
3	しべつ土曜子ども文化村 職業体験館 (名称変更予定)	社会教育課	土曜日に子どもたちに職業体験の機会を提供する。 市広報紙にて、参加児童の感想や写真の連載を行う。 今年度、登録児童は8名。	小学4～6年生	延べ36名 (6回)	【成果】広報掲載という学習成果発表の場があったことで、児童が意欲的に学んだり、質問する姿が見られた。 【課題】より多くの児童が参加しようと思うプログラムづくり	延べ90名	103	より多くの児童が希望する体験に参加できる仕組みづくり
4	しべつ土曜子ども文化村 文化体験館 (名称変更予定)	中央公民館	芸術や文化を愛する心を育て、豊かな情操を養う。	小学4～6年生	延べ52名 6回	【成果】普段の生活では体験できない内容を提供することができた。 【課題】体験内容がモノづくりに偏っていた。	延べ90名	127	音楽体験を取り入れ、内容を幅広いものにする。 より多くの児童が希望する体験に参加できる仕組みづくり



社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
5	しべつ土曜子ども文化村 ふるさと自然歴史体験館 (名称変更予定)	博物館	有意義な土曜日を過ごすため、地域人材を活用し、文化活動を中心とした体験活動を提供する。	小学4～6年生	92名	【成果】新たな興味・関心に繋がるなど、概ね好評であった。 【課題】学年による差、マンネリとならないような工夫。	延べ90名	163	市内小学生が、郷土の自然や歴史について体験をする機会を提供する。 より多くの児童が希望する体験に参加できる仕組みづくり
6	子ども会リーダー養成講習会	中央公民館	士別市子ども会連絡協議会との共催。リーダーとして必要な基礎知識や技術の向上、さらには野外活動での体験学習を実施することにより、多くの経験と活動の幅を広げ、地域子ども会の活性化を図る。実施にあたっては、1市2町合同ジュニアリーダー研修会の参加をもって、講習会とする。	小学5・6年生	中止	【成果】 【課題】事業中止による初級・上級リーダーの認定が停滞している状態である。	10名	5	
7	子ども会リーダー S I N C交流研修会	中央公民館	S I N Cリーダーとしての指導力向上と仲間との交流を行う。	子ども会リーダー「SINC」		【成果】 【課題】ジュニアリーダー同様認定が滞っているため、人数がほほいしない状態である。	3名	0	
8	1市2町合同 ジュニアリーダー研修会	中央公民館	1市2町の小学5・6年生がリーダーとして必要な知識や技術の向上、さらには体験学習を実施することにより、友情の輪を広げ、地域子ども会の活性化を図ることができた。 【課題】今後もリーダー事業として実施するか、児童参加事業とするかなど、その取り扱いを検討している。	小学5・6年生	2名 1回	【成果】1市2町の小学5年生がリーダーとして必要な知識や技術の向上、さらには体験学習を実施することにより、友情の輪を広げ、地域子ども会の活性化を図ることができた。 【課題】今後もリーダー事業として実施するか、児童参加事業とするかなど、その取り扱いを検討している。	30名	58	
9	他町子ども会リーダー交流事業	中央公民館	他市町リーダー研修会に参加し、子ども達の交流の輪を広げ、子ども達の成長を図る。		中止	【成果】 【課題】シニアリーダー(SINC)の人数が低迷しているため参加者の確保ができないうえ、他市町も同様の現状があり、今後の継続について検討を行っている。	3名	73	
10	公民館講座(博物館連携講座) 「川の生きものさがし」	上士別公民館	博物館との連携講座 川に住む生きものに関する興味を喚起する	小中学生・保護者		【成果】日程調整が合わず中止 【課題】	20名	0	
<b>(3) 魅力ある高齢者の学びの場づくりと活動の推進 (中央公民館・地域教育課)</b>									
1	高齢者学習推進事業 九十九大学 学び舎「つくも」	中央公民館	「集い・学び・交流」をおして高齢者の生きがいづくりを推進するとともに、同世代の広い繋がりを構築することを目的として、基礎講座と自主企画活動を実施する。 なお、九十九大学は、本事業と統合して実施する。	60歳以上の市民	延べ940名 26回	【成果】登録者へのアンケート結果から、各講座に対する評価は比較的高く、対象者のニーズに沿った事業を展開できたと考える。 【課題】登録者にとって、「楽しめる場」となっているが、学んだ結果、地域活動へ還元するには至っていない。あさひクラブとの連携を試みたが、今のところ参加希望者は0名となっており、ニーズは低いと推察する。	80名	874	
2	朝日公民館講座 あさひクラブ	地域教育課	・ヨガ教室 ・公共施設訪問 ・生活関係講座(悪質商法・環境問題)	あさひクラブ登録者 ※朝日地区在住の 満60歳以上の方	4回 29名	【成果】いきいきサロン参加者にも参加を呼びかけ実施した 【課題】高齢化による登録者数の減少	延30名	5	
3	高齢者健康講座	多寄公民館	健康に関する学習をする。	65歳以上の市民		【成果】2月27日実施予定 【課題】	8名	-	高齢者に興味をもってもらえるような講座を計画する。
4	第30回町民ゲートボール大会	温根別公民館	高齢者の体づくりと親睦を目的として開催(スポーツクラブと共催)	温根別町民(高齢者)	16名	【成果】 【課題】	15名	10	
<b>(4) 市民の主体的学習活動の促進 (社会教育課・中央公民館・地域教育課・生涯学習情報センター)</b>									
1	社会教育・生涯学習資料作成 「サークルメイト」 「生涯学習ガイド」 「まなび☆ガイド」	社会教育課	市内サークルや施設、提供可能な体験活動の一覧を作成し、学校や地域の学習、体験活動を促進する。	全市民		【成果】隔年発行するサークルメイトにより市民に幅広く生涯学習情報を周知することができた。 【課題】サークルメイトWeb版の掲載内容(代表者名・連絡先)の検討が必要である。	5		まなび☆ガイド更新予定
2	市民自主企画事業 (マイ・プロジェクト)	中央公民館	市内の各種団体やサークルが、市民を対象に自主的に企画した学習事業費の一部を支援し、学習機会の拡大及び団体等の活性化を図る。	市民団体等	4団体 56名	【成果】市民団体の活性化、学習意識の向上が図られた。 【課題】単発の事業にとどまることなく、団体等の自立に繋げることが課題。	2団体 30名	227	事業周知のため、広報・HPなどに掲載する。
3	地域づくり講演会	多寄公民館	地区PTAと公民館との共催による講演会の開催 演題 「買い物環境づくりと買い支え」 講師 日本医療大学総合福祉学部ソーシャルワーク学科 (前名寄市立大学) 松浦 准教授	市民	22名	【成果】参加者は幅広い年齢層となり、地元の買い物環境や交通手段について考えるきっかけとなった。 【課題】	50名	30	講演の内容について検討
4	生涯学習フェスティバル	図書館	生涯学習の成果・発表の場を提供し、創作・創造活動への関心を高め、生涯学習活動の推進する。	全市民	320名	【成果】文化協会との共催による作品展示のほか、20周年記念写真展を実施。 【課題】感染症拡大を防止のため芸能発表、各体験会を中止、縮小開催とした。	350名	72	創作作品の展示は継続実施。 文化活動(開会式・芸能発表・カラオケ発表)、各体験会の開催を計画する。

社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
<b>(5) 地域の伝統文化や歴史を学ぶ機会の充実 (社会教育課・地域教育課・博物館)</b>									
1	指定文化財保護及び史跡整備	社会教育課	指定文化財及び史跡の保守・管理			【成果】 屯田兵屋内人感センサライト設置、室積祖春句碑案内看板修繕による環境整備 【課題】 無形文化財や郷土芸能等の保存・継承		322	多寄遺跡案内看板の破損による更新
2	日向思い出の森親交会	多寄公民館	日向森林公園句碑の管理 (草刈り 6/12、6/20実施) 総会：多寄研修センター (書面総会7/30)	市民		【成果】 【課題】		-	墨入れ、日向森林公園の草刈、総会の実施
3	温根別子ども太鼓教室	温根別公民館	温根別太鼓の継承を目的として開催	温根別小学校児童	5名	【成果】 【課題】	7名	5	
4	主催講座の開催	博物館	各種博物館講座の実施 (地質めぐり、古文書講座、サイエンスフェスティバルなど)	全市民	370名	【成果】 郷土の自然や歴史について、多岐にわたり学習する機会を提供できた。 【課題】 周知方法の改善。適正な募集人数や時間配分。	350名	342	郷土の自然や歴史に関する多岐にわたる内容の学習機会を提供するため、博物館講座を実施する。
5	出前講座の開催	博物館	市内学校や、市民の依頼による特別講座などの開催	全市民	354名	【成果】 郷土の博物館に行っている事業を、出張講座により紹介できたことで、博物館利用者の掘り起こしができた。 【課題】 学校以外での利用増に向けた取り組み	400名		教育普及活動や博物館の利用促進のため、市内学校など、さらなる利用促進に努める。
<b>3. スポーツの振興</b>									
<b>(1) 市民皆スポーツの実現のための機会づくり (スポーツ推進課・地域教育課)</b>									
1	市民クロスカントリー大会	合宿の里・スポーツ推進課	クロスカントリーを通じて、健康づくりと生涯スポーツの推進を図る。 令和4年9月17日開催	全市民	149名	【成果】 市民の運動機会や多世代間の交流機会を提供することができた。 【課題】 中学生以上の参加者増	200名	326	
2	総合型スポーツクラブ推進補助	合宿の里・スポーツ推進課	生涯スポーツ社会の実現を目指して、本市の重要施策として「総合型地域スポーツクラブ」を位置づけ運営委員会を主体として各種事業を展開し、市内4地区において地域の特性を生かした独自のスポーツクラブ推進を目指す。	会員市民		【成果】 各地区で実施されたスポーツクラブ事業に会員や一般市民が参加し、スポーツに親しみ健康増進につながる取組ができた。 【課題】 会員の減小、事業のマンネリ化、事業費の財源確保など	1,000名	2,560	
3	2022士別市チャレンジデー	合宿の里・スポーツ推進課	市民全員対象の1日15分以上の継続した運動をした人数を競う世界規模のスポーツイベント。 令和4年5月25日開催。	全市民	5,336名	【成果】 各団体の協力によりポッチャ大会やウォーキングなどのイベントを実施するなど運動参加へのきっかけづくりに取り組んだが、参加率が30.2%と目標の47%に届かなかった。 【課題】 日常生活における運動習慣を定着させ、市民の健康が高まること。	0名	0	チャレンジデーの参加によって、市民の運動への意識を高めるきっかけになったものの、当初の目的である運動習慣の定着を重点においた取組に変更する。(チャレンジデーには参加しない)
4	第66回町民体育の集い	上士別公民館	町民の親睦交流を目的として開催 (スポーツ協会との共催)	町民・東高校		【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 【課題】	200名	0	
5	子ども水泳教室	上士別公民館	水泳技術の向上と、体力づくりを目的として開催 (水・ツクラとの共催)	小中学生	延19名	【成果】 【課題】	45名	3	
6	町民パークゴルフ大会	上士別公民館	町民の親睦交流を目的として開催	町民	12名	【成果】 【課題】	20名	1	
7	子どもスキー教室	上士別公民館	スキー技術の向上と、体力づくりを目的として開催 (水・ツクラとの共催)	小中学生	延25名	【成果】 【課題】	45名	8	
8	町民冬季スポーツ大会	上士別公民館	町民の親睦交流を目的として開催	町民		【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 【課題】	50名	0	
9	町民スキー教室	多寄公民館	多寄町スキー協会と共催。スキーへの体験・理解と共に親睦を図る。	町民	延べ44名	【成果】 地元のスキー場で丁寧な指導のもと楽しく学び、健康の増進を図ることができた。 【課題】		15	
10	温根別公民館長杯パークゴルフ大会	温根別公民館	町民の親睦交流を目的として開催 (スポーツクラブと共催・神社祭典委員長杯と合同開催)	温根別町民	12名	【成果】 【課題】	15名	10	
11	温根別町民卓球教室	温根別公民館	卓球技術の向上と親睦を目的として開催 (スポーツクラブとの共催)	温根別町民	7名	【成果】 【課題】	15名	0	
12	子どもスキー教室	温根別公民館	スキー技術の向上を目的として開催 (スポーツクラブ・子ども会と共催)	温根別(小中学生)	9名	【成果】 【課題】	15名	23	

社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
13	第57回朝日体育まつり	地域教育課	士別市朝日地区市民のスポーツ活動と、その生活化を促進するとともに他地域市民相互連帯感の高揚を図る 後援：士別市・士別市教育委員会	町民		【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 【課題】		390	
14	第43回町民駅伝大会	地域教育課	町民のスポーツ意欲高揚とその活性化を図り、合わせて相互連帯感を促進する 後援：士別市教育委員会 地域教育課	町民	34名	【成果】 【課題】		90	
15	2022朝日町民マラソン	地域教育課	町民のスポーツ意欲高揚とその活性化を図り、合わせて相互連帯感を促進する。後援：朝日公民館	町民	24名	【成果】 【課題】			
16	第60回町民冬季スポーツ大会	地域教育課	朝日地区市民の冬期間の体力向上と相互連帯感の高揚を図る 後援：士別市・士別市教育委員会	町民		【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 【課題】		86	
<b>(2) 各種スポーツイベントの充実とあり方の検討 (スポーツ推進課・地域教育課)</b>									
1	ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会	合宿の里・スポーツ推進課	日本陸上界における中・長距離を代表とするトップアスリート選手強化及び人材発掘・育成を目的に大会を開催。道内5会場で実施。 令和4年7月2日開催	日本陸連登録選手	186名	【成果】日本陸上長距離の競技力向上に寄与するとともに、3年ぶりに観客を入れることができ、市民にスポーツを親しんでもらう機会を創ることができた。 【課題】シリーズ5大会のなかで、士別大会の参加者が最も少ないことから、より多く選手に参加してもらうこと。	350名	889	従来のトラックレースに加え、参加基準を満たすことができない実業団選手の強化を視点に開催地主催のトラックレースの開催に向け日本陸連と協議を進めている。
2	サフォークランド士別ハーフマラソン大会	合宿の里・スポーツ推進課	トップランナーから家族による参加まで道内外の多くの方々に親しまれる大会として開催。ハーフマラソン、10km、2.1km、ファンラン(2.1km)を実施する。 令和4年7月24日開催。		1,726名	【成果】感染対策により市民、参加者、関係機関に負担を掛けることになったが、理解と協力により開催できた。コロナ前の2019年大会を上回る参加があり、走る喜びを感じてもらえる大会となった。 【課題】より多くの参加者増。(特に市内参加者)	1,700名	6,300	スタート時間の変更、制限時間の延長、5km種目の復活、ハーフマラソンコースの一部変更
3	オリンピックデーラン士別大会	合宿の里・スポーツ推進課	オリンピック・パラリンピック選手とともに幼児から高齢者まで緑豊かな自然の中でウォーキングを楽しみながら、オリンピック精神の普及啓業を図る。 令和4年9月3日 スポーツ教室 令和4年9月4日 オリンピックデーラン開催。		315名	【成果】オリンピックやパラリンピアンとの交流や様々なスポーツをとおして、スポーツの楽しさや面白さなどを知ってもらう機会を提供できた。 【課題】スポーツの持つ価値を多くの方々に知ってもらうため、地域にあったイベントの企画運営を行うこと。	800名	942	これまでのJOC主催のオリンピックデーランではなく、発展的に実行委員会を編成し、新たな形でオリンピック・ムーブメントを推進する。(オリンピックデーランではないオリパラムーブメント事業を行う)
<b>(3) 各種スポーツ教室やオリンピック教室等の開催 (スポーツ推進課)</b>									
再掲	「オリンピック教室」 or 「オリンピック教室」	合宿の里・スポーツ推進課	オリンピックムーブメント推進の一つとして、市内中学生に「オリビズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供し、学校生活や日常生活など、今後の成長に生かしてもらう。	士別中学校2学年 士別南中学校2学年 上士別中学校全学年 朝日中学校全学年	141名	【成果】「オリビズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供できたとともに、オリンピックに出場するまでのバックグラウンドを知る機会を提供することができた。 【課題】オリンピックに限らず、パラリンピアンのお話を聞く機会を提供すること。	131名	251	
<b>(4) 合宿受入れ体制の充実 (スポーツ推進課・地域教育課)</b>									
1	スポーツ合宿事業(各種)	合宿の里・スポーツ推進課	スポーツ合宿における環境整備などを進める。			【成果】コロナ禍前の合宿者数までは回復してないものの前年よりは回復傾向にある。 【課題】交流人口の拡大を図る取組を合宿の里士別推進協議会をはじめ、市民総意の合宿地づくりを進める。	—	10,916	
<b>(5) トップアスリートと市民との接点づくり (スポーツ推進課・地域教育課)</b>									
再掲	「オリンピック教室」 or 「オリンピック教室」	合宿の里・スポーツ推進課	オリンピックムーブメント推進の一つとして、市内中学生に「オリビズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供し、学校生活や日常生活など、今後の成長に生かしてもらう。	士別中学校2学年 士別南中学校2学年 上士別中学校全学年 朝日中学校全学年	141名	【成果】「オリビズム」や「オリンピックバリュー」について学習する機会を提供できたとともに、オリンピックに出場するまでのバックグラウンドを知る機会を提供することができた。 【課題】オリンピックに限らず、パラリンピアンのお話を聞く機会を提供すること。	131名	251	

社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	計画		
							⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
4. 文化・芸術の振興									
(1) 市民の文化・芸術活動の促進(中央公民館・地域教育課・生涯学習情報センター)									
1	市民総合文化祭 中央地区会場	中央公民館	市民が日常で取り組む文化活動の学習成果の発表と作品を鑑賞する機会を提供するために市民総合文化祭を開催し、市民の文化活動に対する意識を高め、地域文化の向上を図る。	市民団体等 小・中学生	1,500名	【成果】コロナの影響から参加団体は少なかったが、文化芸術の発表機会の創出及び活動の推進が図られた。 【課題】参加団体の固定化・高齢化が課題。	1,500名	330	新型コロナウイルス感染対策を行い実施。
2	市民総合文化祭 上土別地区会場	上土別公民館	上土別地区のサークルや学校等の芸術活動発表および作品展	町民	125名	【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のため芸術発表は中止となったが、作品展は従前通りに開催することができ、町民の文化的活動を披露する場を提供できた。 【課題】	300名	120	
3	市民総合文化祭 多寄地区会場	多寄公民館	作品展示会、芸術発表会、お茶会	市民	177名	【成果】文化活動の発表の機会と市民同士の交流を図ることができた。 【課題】	300名	50	
4	市民総合文化祭 温根別地区会場	温根別公民館	温根別小学校学芸会と同日開催	温根別町民	59名	【成果】コロナのため芸術発表は中止となったが、2年間中止となっていた作品展示は開催することができ、町民の文化的活動を披露する場を提供できた。 【課題】	200名	115	
5	市民総合文化祭 朝日地区会場	地域教育課	芸術発表・作品展示	町民		【成果】 【課題】	700名	150	
6	中央公民館 公民館講座	中央公民館	現代社会に即応した各種講座を開催し、既存文化団体の育成や新たなサークルの結成を促進するとともに、市民活動や文化活動を通じて市民交流を図る。	全市民		【成果】 【課題】	4講座 60名	370	
7	上土別公民館 公民館講座	上土別公民館	住民ニーズに基づく各種講座を実施し、さまざまな学習活動を通じて地域での交流を図る。 ・そば打ち教室 ・クラフト工芸教室 ・切り絵教室(3月開催予定)	町民		【成果】(そば打ち)新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 (クラフト)小中学生の夏休み期間中に子ども向けおよび一般向けの講座を同日開催。10月に4地区館合同講座として開催。 【課題】	20名	45	
8	多寄公民館 公民館講座	多寄公民館	住民ニーズに基づく各種講座を実施し、さまざまな学習活動を通じて地域での交流を図る。 ・切り絵講座 ・手話講座	町民		【成果】(切り絵講座)未実施 (手話講座)市民から要望があった手話講座を7月に3回開催した。 【課題】	20名	50	
9	温根別公民館講座	温根別公民館	住民ニーズに基づく各種講座を実施し、さまざまな学習活動を通じて地域での交流を図る。 ・フラワーアレンジメント	町民		【成果】 【課題】	10名	20	
10	朝日公民館講座	地域教育課	水泳教室(2日間) 書道教室 宣言タイムマラソン 新年書初め会(午前の部・午後の部) 基礎スキー教室(4日間)	町民		【成果】 【課題】	300名	369	
11	4地区館合同講座 「クラフト工芸教室」 (上土別地区)	上土別公民館	教養講座の一環として開催	全市民		【成果】 【課題】	40名	20	内容検討
12	4地区館合同講座 「しめ飾りづくり講座」 (多寄地区)	上土別、多寄、 温根別、朝日 公民館	しめ飾りの手法を学ぶ。	全市民	5名	【成果】しめ飾りの基本技術を学び、自ら作ったしめ飾りで、新年を迎えることができた。 【課題】	10名	10	内容検討
13	4地区館合同講座 「オリジナルフラワーアレンジメント教室」 (温根別地区)	上土別、多寄、 温根別、朝日 公民館	フラワーアレンジメントを学ぶ。	全市民	12名	【成果】 【課題】	15名	20	内容検討
14	4地区館合同講座 「藍染教室」(朝日地区)	上土別、多寄、 温根別、朝日 公民館	藍染の手法を学ぶ。	全市民		【成果】 【課題】	5名	5	内容検討
15	ものづくり教室(異世代交流)	温根別公民館	ものづくりの楽しさや異世代交流を目的として開催	小学校児童・一般	18名	【成果】 【課題】	15名	10	

社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画			
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容	
(2) 市民の自主的な文化事業への支援 (社会教育課・地域教育課・図書館・博物館)										
1	人材育成・文化振興事業 文化創作活動補助事業	社会教育課	各種文化団体に対する事業補助金の利用促進	市民	1団体	【成果】事業開催による文化芸術の振興 【課題】事業活用促進のための制度内容の市民周知	3団体	800		
2	学校開放 (文化ゾーン)	社会教育課	社会教育団体への学校の特別教室開放		0名	【成果】 【課題】		0		
3	文集たよる	多寄公民館	年1回の発行。次号40号	市民		【成果】 【課題】		-	年1回の発行。次号41号	
4	個人作品発表事業	多寄公民館	個々に作成された作品を展示し、鑑賞の場の提供。	町民		【成果】 【課題】		-	個々に作成された作品を展示し、鑑賞の場の提供。	
5	特別企画展の開催	博物館	「森脇裕好写真展」「流行病と土別」「日本版画協会巡回土別展」「季節の行事展」		3,026名	【成果】一部会場を博物館以外とするなど、集客を工夫した結果、多くの方に観覧いただけた。 【課題】一部、多くの方に観覧いただける開催時期の検討	2,000名		従来、3年に一度開催している「日本版画協会巡回土別展」を、90周年を記念して2年連続で開催するほか、「外来生物展」「タイムカプセル～博物館収蔵の古文書」を実施する。	
6	その他の特別展示活動	博物館	「多摩美術大学現代版画小品展」「道北地区博物館等連絡協議会巡回展」「ミニ個展」		655名	【成果】土別出身者の絵画展示をミニ個展に誘導したことで、地域住民の事業参画と博物館利用者の増につながった。 【課題】ミニ個展の利用増	400名	991	「多摩美術大学現代版画小品展」「道北地区博物館等連絡協議会巡回展」「ミニ個展」	
7	ブックスタート事業	図書館	絵本の読み聞かせと親子のふれあい遊びを行い、説明を添えた冊子と絵本を0才及び3才児へ贈呈する。	乳児、3歳児、保護者	見込 130名	【成果】0才ブックスタートを毎月1回、3才フォローアップを毎月2回開催。 【課題】	130名	400		
8	各種よみきかせ会	図書館	絵本の読み聞かせにより、幼少期から本から得られる楽しさやあたたかさ、図書館への興味を持ってもらう。	乳幼児、保護者	見込 480名	【成果】よみきかせボランティアの協力をいただき、毎月1回ブックスタート以外のよみきかせ会や、子ども読書週間、平和推進事業など各種イベントでの絵本や紙芝居のよみきかせ会を開催。 【課題】	500名	-		
9	読書通帳	図書館	読書通帳一冊で本30冊を目標とし、読書活動を推進する。	乳幼児、児童生徒	達成見込 20名	【成果】1冊たまるとに景品と記念写真を贈呈。 【課題】	20名達成	-		
10	読書感想文コンクール	図書館	市内小学校・中学校・高等学校の児童生徒を対象に学校図書館協会と共催でコンクールを実施し、冊子を発行する。	児童生徒	385名	【成果】全道コンクールへ39名応募 特別賞2、優秀賞2、優良賞5、学校賞1 【課題】	380名	148		
11	文集・文芸誌発行	図書館	市内小学生・中学生の作品を募集し、文集しべつを毎年発行。市民及び土別市ゆかりの方の作品を募集し市民文芸を2年に1度発行。	児童生徒	172名	【成果】学習成果の発表や作品交流の場として文集しべつを発行。 【課題】	170名	429	文集しべつのほか、市民文芸第28号を発行する。	
12	学校ブックフェスティバル	図書館	道立図書館の大量一括貸出を活用し、子どもたちが多くの本に親しみ、読書の楽しさや読みたい本を選ぶ楽しみにふれることによる読書活動の普及を図る。	児童生徒	48名	【成果】多寄小学校、土上別小学校で開催。本の貸出しのほか、よみきかせ会や仕掛け絵本の展示を行った。 【課題】	50名	20	実施希望校を募り、1～2校で開催を計画する。	
13	各種テーマ展示・特別展示	図書館	季節、時事に即した本の展示による図書館利用促進と読書活動促進を図る。	全市民	随時	【成果】男女共同参画社会、道民の日・アイヌ関連、戦争と平和 ほか。 【課題】	随時	-		
14	各種教室	図書館	読書週間や季節にちなんだ体験会や工作教室を開催し、図書館利用促進と読書活動促進を図る。	全市民	76名	【成果】手作り絵本教室、大型絵本づくり、ブックカバーかけ体験会 ほか。 【課題】	80名	124		
15	各種映画会	図書館	読書週間や季節にちなんだ映画会を開催し、図書館利用促進と読書活動促進を図る。	全市民	46名	【成果】午前中は子ども向け、午後は一般向けで開催。 【課題】	50名	-		
16	古本・古雑誌リサイクルフェア	図書館	除籍図書や市民から寄贈された書籍などを無料で提供し、図書館利用促進と読書活動促進を図る。	全市民	122名	【成果】市民からの寄贈本約600冊を含め、約1,200冊を提供。 【課題】	120名	-		
17	移動図書館車活動	図書館	図書館から遠隔の地域、小中学校保育園等へ巡回し、読書活動の促進を図る。	全市民	運行 159日	【成果】市街巡回5コース毎月2回、学校等巡回4コース毎月1回実施。利用促進のため、土別青年会議所事業「キッズチャレンジタウン」に合わせて移動図書館車開放を実施。 【課題】	運行 165日	-		
18	共催事業	図書館	文化団体等との共催により事業を行い、図書館利用促進と読書活動促進を図る。	全市民	235名	【成果】市民参加朗読劇「夏の雲は忘れぬ」、クリスマスコンサート (ハンドベル・合唱) を開催。 【課題】朗読劇は感染症拡大を防止のため一度中止し、秋の日程で開催。市民周知に課題が残った。	200名	-		



社会教育事業 報告・計画

資料 4

②番号	③事業名	④担当	⑤事業内容	⑥対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑧成果・課題	⑨想定 人数/回数	⑩予算 (千円)	⑪令和5年度の変更点および実施内容
5. 教育・学習環境の整備									
(1) 地域とともにある学校づくりの促進(学校教育課・社会教育課・東高校)									
1	地域学校協働活動の体制構築	社会教育課	学校を核とした地域づくりの推進のため、地域学校協働本部の体制を構築、コミュニティ・スクールと一体的な推進を図る。	全市民		【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、協議会ごとに工夫を凝らした活動を計画していた。 【課題】地域学校協働活動の理解と委員の主体的な参画	2,000名	5,683	更なる推進のための制度の理解促進、環境整備
2	温根別小学校 魚釣り体験支援	温根別公民館	温根別町民を講師に迎え、温根別小学校児童を対象とした魚釣り体験をコーディネートする。	小学校児童	11名			12名	
3	糸魚小学校、朝日中学校 総合学習支援	地域教育課	朝日の山野草を学ぶ 朝日の地層 市民の森自然散策 あさひの音を語る会(3日間) わら細工 茶道教室(2日間) 音の遊び R4年度より地域教育課にて、コーディネート	中学生 小学生					

分館・施設管理関係

	事業名	担当	事業内容	対象	実績		計画		
					⑦参加人数 実施回数	⑨成果・課題	⑩想定 人数/回数	⑪予算 (千円)	⑫令和5年度の変更点および実施内容
1	下士別分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	2講座	【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。 【課題】講座内容の固定化、参加者数の減少。	25講座	127	
2	中士別分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	2講座	【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。 【課題】講座内容の固定化、参加者数の減少。	3講座	127	
3	武徳分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	4講座	【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。 【課題】講座内容の固定化、参加者数の減少。	5講座	127	
4	北温分館	温根別公民館	分館環境整備・料理教室・手芸教室・親子ふれあい祭など	一般		【成果】 【課題】		25	
5	壬子分館事業	地域教育課	壬子地区運動会、パークゴルフ大会、手芸教室、料理教室、手芸教室、室内軽スポーツ	一般		【成果】 【課題】		40	
6	三栄分館事業	地域教育課	ゲートボール大会(年2回)、収穫感謝祭、料理教室、手芸教室(2回)	一般		【成果】 【課題】		40	
7	登和里分館事業	地域教育課	登和里地区運動会、フラワーアレンジメント、新年レクリエーション、手芸教室、パークゴルフ大会、料理教室	一般		【成果】 【課題】		40	
8	朝日郷土資料室整備業務	地域教育課	郷土資料の維持管理			【成果】 【課題】	500名	1,658	
9	瑞穂獅子舞伝習館管理業務	地域教育課	施設の維持管理			【成果】 【課題】		325	
10	あさひライズホール管理業務	地域教育課	指定管理			【成果】 【課題】		85,166	
11	生涯学習情報センター施設整備	図書館	施設内各設備修繕		-	【成果】非常灯ランプ交換(10箇所) 誘導灯本体・蓄電池・ランプ交換(11箇所) 情報センター地下湧水処理 視聴覚室ワイヤレスマイク更新 【課題】	-	5,980	非常灯ランプ交換(9箇所) 誘導灯本体・蓄電池・ランプ交換(11箇所) 地階内装改修 無線LANルーター設置 可動式三面鏡購入

## 社会教育委員の研究活動（令和3～4年）のまとめ・総括

## 1. 研究活動の概要

## 【令和3年度】

第1回	・社会教育・社会教育委員の役割について 説明：工藤社会教育アドバイザー
第2回	・社会教育施設・社会教育事業の目的について 「中央公民館」「図書館」
第3回	・令和3年度事業報告

## 【令和4年度】

第1回	・令和4年度の事業計画と改善点 ・社会教育施設・社会教育事業の目的について 「博物館」「合宿の里・スポーツ推進課」
第2回	・グループワーク
第3回	・グループワーク
第4回	・令和5年度事業計画とその改善点

## 2. 意見・回答について

資料3「社会教育への意見回答」のとおり

## 3. 総括

社会教育委員の職務について、社会教育法では、

第十七条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- 一 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- 二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- 三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 (省略)

今回の研究活動は、上記の社会教育委員の職務を遂行するために、「社会教育」「社会教育委員の役割」、「土別市の社会教育事業」について共通理解を図りながら、各委員の私見や経験をもとに社会教育行政への助言をいただくことを目的に行いました。事業の実績や計画を事務局から説明するだけでなく、各社会教育施設の職員から施設の役割や事業の狙いを説明することで、社会教育行政全体と各施設の役割の理解と委員の経験や知識を合わせて、社会教育への助言をいただく流れとしました。

今年度、第2回、第3回の会議ではグループワークを行い、多種多様なご意見をいただきました。委員各自が地域で行っている活動や、地域部活動など初めて聞く話題などに触れ、多様なご意見をいただくことができました。令和3年度第1回の会議にて、工藤社会教育アドバイザーが社会教育委員の役割の説明にて「どうせやるなら、楽しく、やりがいのある活動にして、少しでも自分自身にプラスになる活動にしませんか。大人の学び合いの場です。正解などありません。まずは、自分考え、次に仲間の考えを出し合い、お互い何かを吸収して帰りたいですね。「トモニ オシエ ソダチアウ」関係です。」という言葉が体現できたのではないかと思います。興味や関心、考えや知識、経験が異なる各委員独自の視点から多様なご意見を出してもらったことは、大変有意義な機会になったと考えます。

#### 4. 展望

『生涯学習推進の中心的役割を担う社会教育については、SDGsの視点からも、多様な人々が相互理解のもとで共生していく社会の実現に向けて、極めて重要な役割を果たすものと期待されています。特に、一人ひとりの自発的な学びの成果が地域社会に還元され、リカレント教育が人生100年時代における豊かな社会の構築に大きな影響を及ぼすとも捉えられています。』（令和5年度士別市教育行政執行方針から）

また、来年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策が緩和され、3年間、規模の縮小や中止をしてきた社会教育事業も以前のような活気を取り戻すことができることが予想されます。障がいの有無やLGBTなど、一人ひとりを受け入れながら、市民の学びが実現できるように、委員の皆様のご経験やお考えに基づく助言をいただきながら、より深い学びと協議の場を多く作れるように本会議を進めていきたいと思っております。